

河川・水路における自然浄化対策の推進に係る取組事例集の作成について

- ・第4期実行5か年計画において、「効果的な河川・水路の整備についての事例集作成」を計画している。
- ・今後各市町村が実施する河川・水路整備の参考となるような整備事例をまとめた資料を作成する。
- ・令和7年度から事例収集を始め、令和8年度中に作成・公開したい。
- ・事例集の作成イメージは別添のとおり。

<参考；第4期実行5か年計画>

6	河川・水路における自然浄化対策の推進	対象地域	相模川水系・酒匂川水系取水堰の県内集水域
ねらい	水源として利用している河川において、生態系による自然浄化や水循環の機能を高めることで、水源水質の維持・向上を目指す。		
目 標	相模川水系及び酒匂川水系の取水堰の県内集水域に位置する市町村管理河川やその流域の支流及び水路の環境整備を推進する。		
事業主体	市町村		
事業内容			

① 生態系に配慮した河川・水路の整備

生態系による自然浄化機能や水循環機能を高める効果のある次のような整備手法を用いて、生態系に配慮した河川・水路の整備を実施する市町村への支援を行う。

【整備手法の例】

- ・ 自然石を配置するなどして、瀬と淵ができるような整備を行う。
- ・ 河床に礫を敷く、護岸に多孔質材を使用するなどして、自然浄化機能を高める整備を行う。
- ・ 護岸を空積みにする、河床が水が浸透できる地質にするなどして、伏流水や湧水を遮断せず、河川との水循環機能を高める整備を行う。
- ・ 露出した洲（水際線）や河道内に植物が生育できるような環境を整えるなど、生物の生息空間を確保し、生態系の保全・再生に資する整備を行う。



河床に礫を敷く



護岸に多孔質材を使用[※]

	第4期5年間
工事箇所数	5箇所

② 効果的な河川・水路の整備についての事例集作成

第4期終了後の河川・水路の整備の参考として、水源環境保全・再生施策として行った河川・水路の整備についての事例集を作成し、市町村と共有する。

事業費	第4期計画の5年間計	947百万円	（単年度平均額 189百万円）
	うち新規必要額	947百万円	（単年度平均額 189百万円）

かながわ水源環境保全・再生施策

河川・水路における自然浄化対策の推進 取組事例集

令和8年〇月

神奈川県環境農政局
緑政部水源環境保全課

目次

5 例程度を紹介
(記載は仮の事例)

- 1 はじめに（本事例集について）
 - 2 「河川・水路における自然浄化対策の推進」の概要
 - 3 生態系に配慮した河川・水路等の整備事例
 - （1）自然の河道形態の保全・再生を図る整備
 - ・ 瀬や淵の設置等による多自然型水辺空間の整備（厚木市／善明川）
 - （2）自然の浄化機能の保全・再生を図る整備
 - ・ 自然石固着金網かごによる河床整備（厚木市／北久保川）
 - ・ かごマットによる河床整備（松田町／河土川）
 - （3）自然の水循環機能の保全・再生を図る整備
 - ・ 連結自然石空石積工による護岸整備（相模原市／姥川）
 - （4）自然の生態系の保全・再生を図る整備
 - ・ 連柴柵工等による多自然型河床整備（厚木市／恩曾川）
 - 4 河川・水路における直接浄化対策
 - （1）河川の自然浄化機能の回復
 - ・ 水質浄化ブロックによる水質浄化（厚木市／恩曾川）
- （参考）
- ・ 年度別事業箇所一覧
 - ・ 生態系に配慮した河川・水路等の整備指針

1 はじめに

かながわ水源環境保全・施策大綱（平成 17 年 11 月）において、本県では将来にわたり県民が必要とする良質な水の安定的確保を目的として、水の恵みの源泉である水源環境の保全・再生を推進すべく、平成 19 年以降の 20 年間にわたる水源環境保全・再生の取組の基本方針と施策の概要を示しました。この施策大綱に基づき、「かながわ水源環境保全・再生実行 5 か年計画」を第 1 期から第 4 期まで策定し、将来にわたり県民が必要とする良質な水の安定的確保を目的として、水の恵みの源泉である水源環境の保全再生を推進してきました。

．．．．．

本事例集は、水源環境保全・再生施策のうち「河川・水路における自然浄化対策の推進」として取り組んだ事業のうち、『生態系に配慮した河川・水路の整備』、『河川・水路における直接浄化対策』について今後市町村が実施する取組の参考になることを期待して、施工事例を紹介します。

＜本事例集で紹介する市町村及び河川＞

（記載は仮の事例）



2 「河川・水路における自然浄化対策の推進」の概要

ねらい	水源として利用している河川において、生態系による自然浄化や水循環の機能を高めることで、水源水質の維持・向上を目指す。
対象区域	相模川水系・酒匂川水系取水堰の県内集水域 
目標	相模川水系及び酒匂川水系の取水堰の県内集水域に位置する市町村管理河川やその流域の支流及び水路の環境整備を推進する。
事業内容	生態系による自然浄化機能や水循環機能を高める効果のある次のような整備手法を用いて、生態系に配慮した河川・水路の整備を実施する市町村への支援を行う。 (1) 自然の河道形態の保全・再生を図る整備 ・自然石を配置するなどして、瀬と淵ができるような整備を行う。 (2) 自然の浄化機能の保全・再生を図る整備 ・河床に礫を敷く、護岸に多孔質材を使用するなどして、自然浄化機能を高める整備を行う。 (3) 自然の水循環機能の保全・再生を図る整備 ・護岸を空積みにする、河床を水が浸透できる地質にするなどして、伏流水や湧水を遮断せず、河川との水循環機能を高める整備を行う。 (4) 自然の生態系の保全・再生を図る整備 ・露出した洲（水際線）や河道内に植物が生育できるような環境を整えるなど、生物の生息空間を確保し、生態系の保全・再生に資する整備を行う。

（※第4期計画時点の内容）

3 生態系に配慮した河川・水路等の整備事例

(1) 自然の河道形態の保全・再生を図る整備

①瀬や淵の設置等による多自然型水辺空間の整備(〇〇市／〇〇川)

(整備後写真)

(整備内容の説明)

※整備前の状況、整備の目的、工法選択の理由などを記載

(整備前写真)

○整備により期待される効果

.....

○位置図

○断面図

○構造図

(○施工状況写真)

○モニタリング結果

○事業効果の考察

○取組を行った市町村担当者の所感・PRポイント

（３）自然の水循環機能の保全・再生を図る整備

①連結自然石空石積工による護岸整備（相模原市／姥川）



（整備内容の説明）

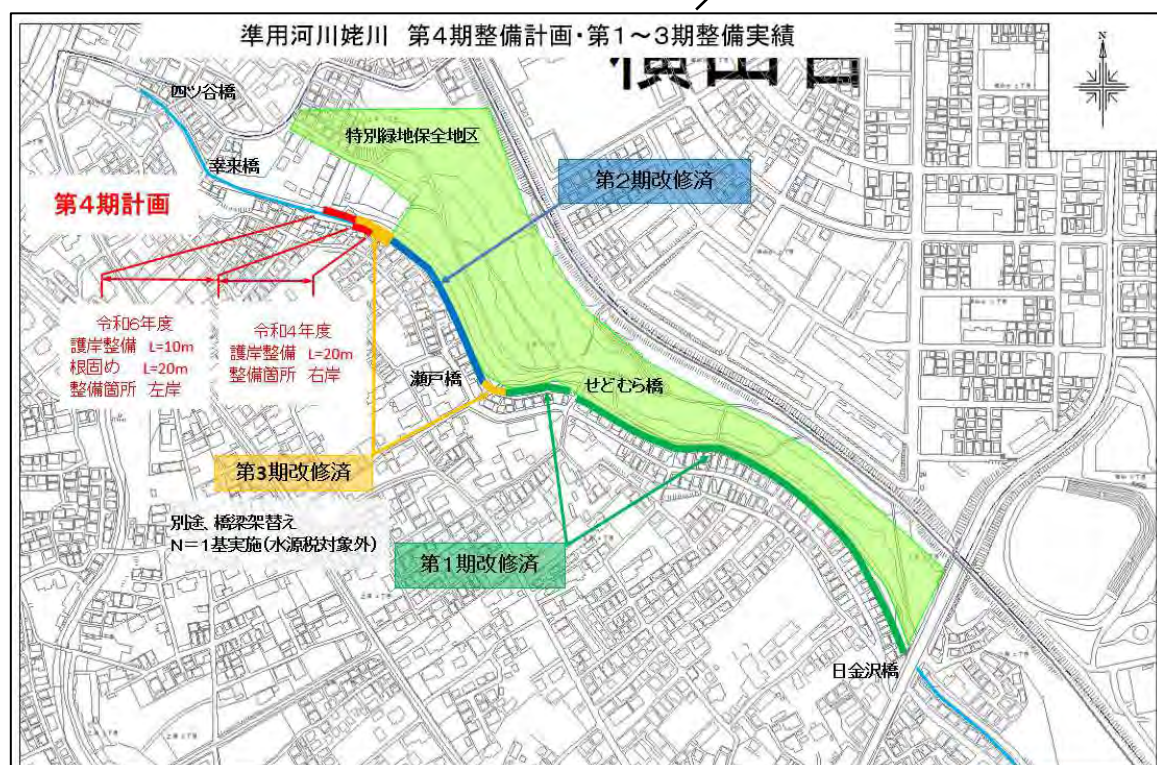
整備前の状況、整備の目的、工法選択
の理由などを記載

整備前の状況写真

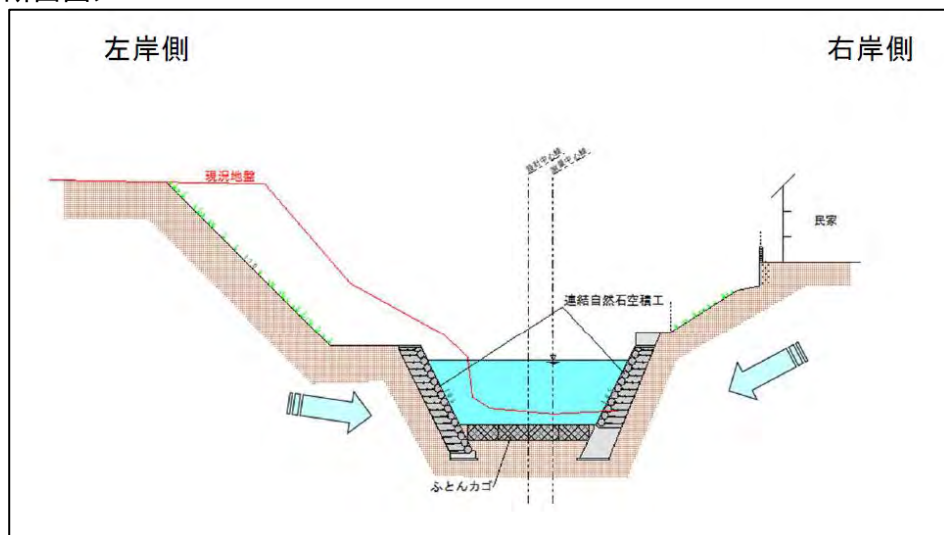
○整備により期待される効果

湧水等を遮断せず、河川との水循環機能を高める効果が期待される。また、自然石の隙間により植物の生息空間を確保する効果や水質浄化の効果も期待される。

<位置図>

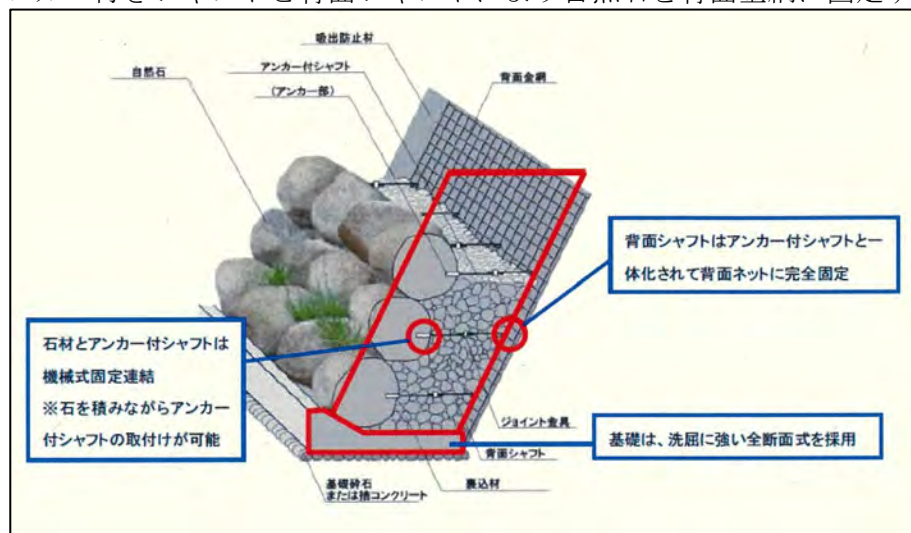


<断面図>



<構造>

アンカー付きシャフトと背面シャフトにより自然石を背面金網に固定する。



<施工状況>

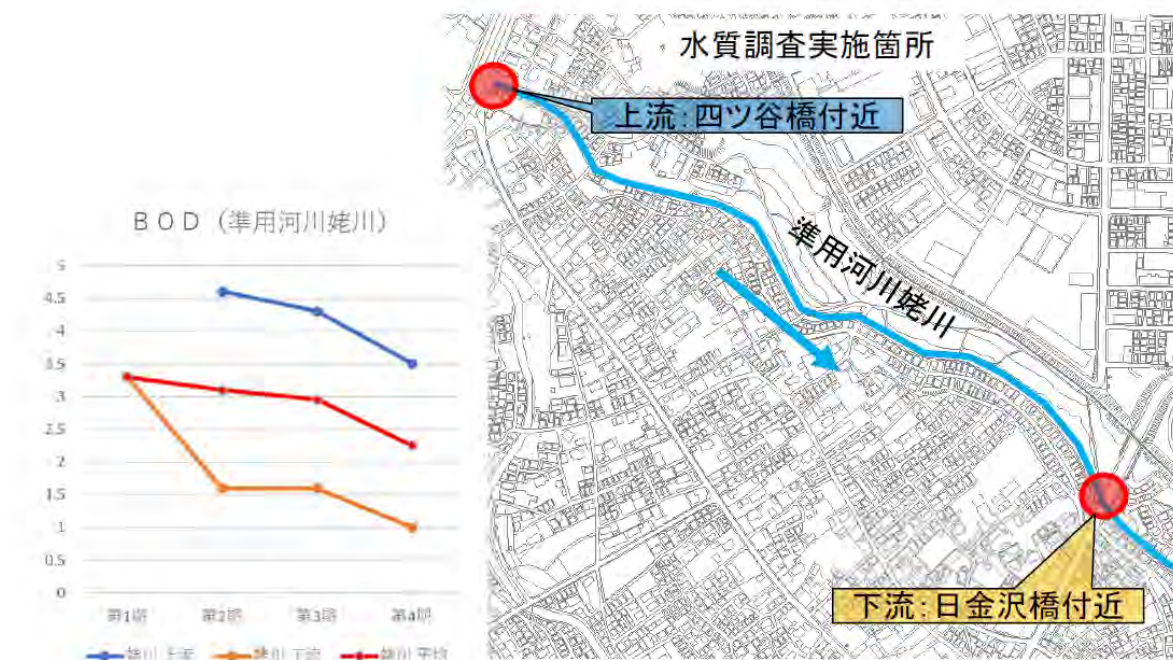


<施工にあたっての留意点>

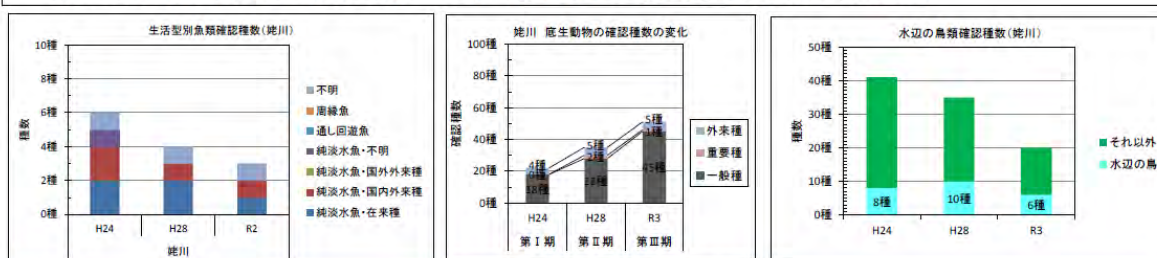
.....

.....

○モニタリング結果（水質調査、動植物調査等）



- 平成19年度から平成23年度までを第1期、平成24年度から平成28年度までを第2期、平成29年度から令和3年度までを第3期として、当該河川の動植物の変化を整理した。



姥川比較結果まとめ(動植物)

項目	経年比較
魚類	・H24は6種、H28は4種、R3は3種の確認であり、在来種がわずかに減少した。 ・重要種としては、アブラハヤが変わらず確認されている一方、メダカ類、ドジョウが確認できなくなった。 ・外来種としては、国内移入種であるオイカワが変わらず確認された。 ・比較的きれいな河川に生息するアブラハヤが確認されている。 ・経流域や水草などメダカ類の生息に必要な環境が失われている可能性がある。
底生動物	・H24は22種、H28は36種、R3は51種の確認であり、種数は変わらず増加している。 ・重要種として、クビソコガランシズムシが新たに確認された。 ・きれいな川の指標となるカゲロウやトンボ、トビケラが継続して確認されたことから、河川の水質浄化は維持されていると推測される。
鳥類	・H24は41種、H28は35種、R3は20種の確認であった。 ・重要種として、オオタカ、キセキレイ、セグロセキレイ、カワヒラなどが変わらず確認されている一方、モズ、ツバメ、ルリビタキ、ビンズイやアオジが確認されなかった。 ・外来種の種数は減ったが、河川を主たる生育場所としていない種である。 ・全体の確認種数は減少したが、水辺の鳥類(カワセミ、セキレイ類)は変わらず確認されていることから、鳥類の生息環境は維持されていると考えられる。

○事業効果の考察

.....

.....

○取組を行った市町村担当者の所感・PRポイント

.....

.....